

ニンジン



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
土作り	なるべく早めに 播種までに20日以上 おく事	<ul style="list-style-type: none"> ●堆肥1トン以上(なるべく多く) ※堆肥・有機物が無い場合は、米ヌカ150kg以上。 ●ラクトバチルス600g→排水(通気)・保水・保肥性のよい土壤に。 ●硫安80kg~100kg ※もし通常の配合肥料を使う場合は、チッソ成分で16~20kg。 砂地で堆肥が乏しい場合は硫酸カリ20kg。 ●畑の大将<青> 60kg(酸性土壤なら80~100kg) →カルシウム栄養供給とともに、土壤酸性の中和も行なう。 白絹病・根部の腐敗が心配な畑では、特にしっかり中和する事。 土壤pH 6.0~6.5となるように調節する事。 ※カルシウムの施用は 整地後、ウネ上への散布でもOK。 ●マンゾク・粒状 50kg →持続的に根部を強く伸ばし、生育を早く・強く進める。 特に連作畑や、線虫や土壤障害が心配な畑では、それを防ぐ。 <p>上記4~5種を同時に散布して耕し、整地する。 播種したニンジンの発芽・発根と初期生育には、土の湿り気の安定が必要。土作りと散水に注意する事。</p>
播種直前	播種直前の散水時 (または播種後4~5日中)	<ul style="list-style-type: none"> ●根っ酵素を適宜薄めて灌水(散水) ※発芽・発根の促進。線虫や土壤病害にも強くする。
追肥	第1回・追肥 (播種後1ヶ月頃)	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安10kg(状況によっては20kg) ※最後の間引き(本葉6枚)・土寄せの直後に根っ酵素500倍を、葉の上から散布。傷んだ茎葉を回復させ、根を伸ばす。それから5日ほどしてから、硫安を散布。これが、この後に増加する葉重への養分。 [注意]土寄せ時に直接硫安を施すと軟弱徒長に陥る事がある。
	第2回・追肥 (播種後50~60日頃)	<ul style="list-style-type: none"> ●硫安20kg(第1回から20~30日後、状態を見て) ※この後、葉数が増え、根径・根重が大きく詰って来る。 ※この時期に 根部への転流が強くなる転換期となる。 ●畑の大将<青> 20kg ※土壤pH:6.5以上と高い場合は畑の大将<赤>を施す。 →カルシウムはニンジンを実を充実させ、着色を進める。 ※状況によって、葉色薄く、葉数が少なく、土壤にチッソ不足(EC:0.2以下)なら硫安を追肥する事。 ※チッソが効いていれば(EC:0.3~0.4)カルシウムを追肥する。硫安+カルシウムの同時施用も効果的。 硫安とカルシウムは同時に散布できる。ただし混ぜたままで、撒かずに長時間を置くことはしないように。 その後、必要に応じて 第3回・追肥も施す。
葉面散布	生長増進、根部の肥大	●根っ酵素液500倍を葉面散布(黒葉枯病の時にも)
(適時、状況を見て)	ニンジンの充実促進	●花咲くCa液500倍を葉面散布

春蒔き夏穫り:3~4月播種、6~8月収穫、冷涼地では5月播種、9月収穫(MS五寸)

夏蒔き秋穫り:6~7月播種、10~12月収穫(黒田五寸、金港、金時)

冬蒔き春穫り:暖地で11~2月播種、4~6月収穫(US五寸)